

しつもの箱—
先生インタビューは、包んでから渡す

Class_____ No._____ Name_____

今日のゴール

聞きたいことを We want to know ～ / Could you tell me ～? の箱に入れて、先生（ALT）へ運ぼう。

STEP 1 お手本を読んで、声に出してまねしよう。

先生インタビューの箱

① そのまま聞くと： Why did you become a teacher?

② 箱に入れると： We want to know **why you became** a teacher. (did が消えて、順番がもどる)

▼ お願いの形で包める

Could you tell me **what sport you liked** in junior high school?

Do you know **how old our school is**? (先生でも知らないかも)

どの箱でも、中身は〈疑問詞＋ふつうの文の順〉にもどる—導入でやった「中身はもうたずねていない」がここでも効く。生の疑問文を連発すると尋問になるが、箱に包むと質問は届け物になる。

STEP 2 使える表現（この中から選んで使おう）

Excuse me.

We want to know ～.

I want to know ～.

Could you tell me ～?

Do you know ～?

why you ～

what you ～

That's interesting!

Thank you!

STEP 3 先生（ALT）に聞いてみたいことを3つメモして、答えを予想しておこう（メモは日本語でよい）。

れい：なぜ先生になったのか／中学生のとき何の部活だったか（疑問詞は what / why / where / when / how から）

	聞きたいこと（日本語でよい）	疑問詞	答えの予想
①			
②			
③			

STEP 4 メモを箱に入れて英語にしよう。3つのうち1つは Could you tell me ～? の形で書く。

✓ お手本と表現バンクを見ながらでOK。まちがいを恐れず、まず書いてみよう。

しつもの箱—
先生インタビューは、包んでから
渡す【つたえる・ふりかえる】

Class_____ No._____ Name_____

STEP 5 班で質問をえらんで、先生（ALT）へ運ぼう。

できたらチェック：

- ☐ ① 班で読み合わせて、同じ中身の質問を1つにまとめる（同じ質問は箱に1回）
- ☐ ② 班で3つえらんで、聞く順番を決める（最初は Excuse me. から）
- ☐ ③ 先生（ALT）に聞いて、答えをメモ—予想と同じ？ ちがう？
- ☐ ④ 予想とちがった答えに〇—〇のついた質問が、班にもどって報告する一番のみやげ

聞けた質問（箱に入れた形で）	答えのメモ（予想とのズレも）

自己評価 できたところに ○ をつけよう（正直に！）

ふりかえりの観点	◎ よくできた	○ できた	△ もう少し
① 内容 言いたいことが相手に伝わった			
② 正確さ 習った表現を正しく使えた			
③ 流暢さ あまり止まらずに言えた			
④ 態度 相手を見て、聞こえる声で言えた			

ふりかえり 次はどうしたい？ できるようになったこと・次の目標を1つ書こう。

☆発展チャレンジ！ 質問に「なぜ聞きたいか」を because で足してみよう。I want to know why you became a teacher because I want to be a teacher, too. 一理由つきの質問は、答える側も本気にさせる。

先生へ（この教材のねらいと進め方）

ねらい：間接疑問を語順の操作で終わらせない。質問は箱（Do you know / We want to know / Could you tell me）に入れると、ためておける・選べる・人に運べる・目の前の人へ丁寧に渡せる—「包む」機能を場面ごと体験させる。導入（だれか知ってる？）→定着ドリル→この1枚で一本道になる。

この材料を選んだ理由：導入は「答えが教室にない質問を持ち歩く」だった。応用は逆向きに「答えを持っている1人へ、班の質問をまとめて運ぶ」。集めて選んで渡す場面では生の疑問文のままだと扱えない—箱に入れる必然が場面から立つ。

対応単元：ONE WORLD 2 Lesson 8「Rakugo in English」。want / tell / ask+人+to不定詞と同居する単元なので、聞き取れなかったときの Could you say that again? まで拾うと単元がつながる。ALT訪問の週に置けば、そのままインタビュー活動になる。

進め方・見取り：見るのは、箱の中の語順（×We want to know why did you become ～）／did の消し方（why you became）／①で「同じ中身」をまとめるとき箱の外見でなく中身で比べているか。予想を書かせてから聞かせる—ズレがそのまま報告の中身になる。評価は裏面の4観点で。

△ **使う文法の範囲：**中2・2学期までの既習+間接疑問（疑問詞のみ）で組んでいます。if / whether の間接疑問・時制の一致・仮定法は使いません。報告は現在形で言える形にとどめてください。